

関西大学博修士会 創立70周年を祝して

関西大学学長 前田 裕



関西大学大学院の修了生、学位取得者の同窓会である関西大学博修士会が創立70周年を迎えられますこと、心よりお喜びを申し上げます。また、いままで貴会を支えてこられた多くの先達の皆様にも、そのご貢献、ご尽力に感謝を申し上げます。

関西大学の大学院の歴史は、大学令により大学として昇格した翌年1923年に遡ります。この年、本学の学位規程が文部省から認可されています。これを受け、本学最初の学位授与者は武田宣英氏で、1928年に法学博士の学位が授与されています。その後、実際に大学院が設立されたのは1929年でした。この年、第一期生9名を受け入れ、大学教員養成の構想の下で、大学院としての本格的な活動がはじまりました。

新制の関西大学大学院は1950年4月に、法学研究科（2専攻定員60名）、文学研究科（3専攻定員60名）、経済学研究科（1専攻定員50名）の3研究科の修士課程でスタートしました。その2年後に、55名の修士課程修了生が生まれ、修了後も修了生が集える場があるようにという思いから修士会が作られました。その後、1952年には博士課程が設置され、貴会の名称も博修士会となりました。それ以後、関西大学大学院は先生方のご尽力を得て、各研究科の拡充が行われ、現在、13の研究科と2つの専門職大学院を有しています。大学院創立以来の修了者および学位取得者の総数は24,000名を超え、各界でご活躍されています。同時に、博修士会の活動も、多くの修了生の皆様のご尽力で発展し、いまに至っています。

いま、日本の人口は1億2,519万人（2022年4月現在、総務省統計局人口推計より）から2065年の8,808万人（国立社会保障・人口問題研究所日本の将来推計人口より）へと減少すると推定されています。このような急激な人口減少が進行する中であって、日本社会を継続的に支え、国際社会に貢献できる日本であるためには、ジェンダー、年齢、文化的

な背景を越えた、多様な人々がお互いを尊重しながら、協力しあうことが欠かせません。同時に、高い知識と見識をもった高度職業人材が、社会全体の生産性を高め、SDGsに代表される課題を解決すると共に、多様な価値観で社会や人々の心と暮らしを豊かにすることが望まれています。

その一方で、日本の社会において、修士号・博士号の取得者数の少なさが問題になっています。人口100万人当たりで、日本の修士号取得者は588人で、英国の4,216人、米国の2,550人に比べると極めて少なく、博士号では日本の120人に対して、英国は375人、隣国韓国は296人です（文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術指標2021、調査資料-311より）。

関西大学においても学部を卒業した優秀な学生が、さらに高度な知識を学び、より高度な職業人材となるべく、大学院に入学しておられます。大学院のさらなる活性化、高度化を目指して、外国語で修了できるプログラムや研究科の枠を越えた取り組みなど、学の実化の学是のもとで、社会を先導できる人材育成に取り組んでいるところです。

コロナ禍やウクライナでの惨事を見てもわかるように、何が起ころうとも不思議ではない、いまの社会で、単に知識だけでなく、高い見識と矜持をもって社会を先導する人材の育成は、学の実化を学是とする関西大学の使命でもあり、関西大学大学院の教育、研究の重要性は益々高まっています。その修了生の集まり、ネットワークとしての博修士会の果たす役割やその発信力も欠かせない存在になっていることは言うまでもありません。

関西大学博修士会の創立70周年を迎えてのお喜びと同時に、つぎの70年、いや100年を関西大学大学院と共に発展されることを祈念して、お祝いの挨拶とさせていただきます。

注：関西大学大学院の歴史については、「新制大学院50周年を迎えて—その設立の経緯—、永田眞三郎、関西大学年史紀要第13号（2001年）」を参考にさせていただきました。